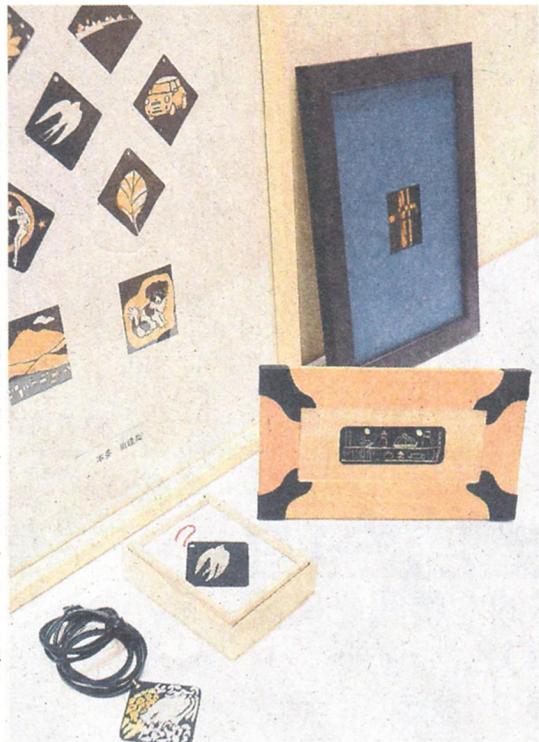


# 日本画家 肥後象がん デザイン



日本画家がデザインした肥後象がんのペンダントなど

＝熊本市中央区

(中原功一朗)

県内の日本画家がデザ

インした肥後象がんの作  
品展が27日、熊本市中央

ぶ。12月2口まで。

日本画家で崇城大芸術

学部長の中村賢次さん

が約一ヶ月かけて象がん

にした。

区のギャラリーカフェア  
ークで始まった。肥後象  
がん師の白木光虎さん  
(80)＝熊本市＝が「伝統  
工芸に新しい風を吹かせ  
たい」と初めて企画。動  
物をかわいらしくあしら  
ったペンダントなどが並  
（55）にデザインを依頼。  
中村さんと、教え子の卒  
業生10人がそれぞれ数点  
～10数点の下絵を描い  
た。3、4センチ角などの黒  
い下地に、ネコや花、風  
景などを金色や銀色で表  
現。このうち約10点を、

白木さんら象がん師5人  
がツバメをイラスト風に  
化した十字架を表現し  
た額装のほか、下絵も並  
ぶ。中村さんは「今までこ  
そ日本画、肥後象がんと  
ジャンルが分かれてい

## 「伝統工芸に新しい風を」

熊本市で作品展

るが、日本のものづくり  
では近い存在だったかも  
しれない」と話してい  
る。

白木さんは「これまで  
は象がん師が花鳥風月や  
伝統文様などをデザイン  
し、制作するのが普通だ  
った。新しい芽が出てき  
た気がする」と手応えを  
みせていた。